

出國報告（出國類別：考察）

赴日本進行原產地規則考察及 產證系統技術交流出國報告

服務機關：經濟部國際貿易局

姓名職稱：張科長肇鐘、陳辦事員宣玚、金系統分析師燁燁

派赴國家：日本

出國期間：108年6月2日至108年6月4日

報告日期：108年8月22日

目次

壹、前言.....	3
貳、行程內容.....	3
參、拜會財務省關稅局.....	4
肆、參訪產證主管機關及簽發單位.....	7
陸、檢討與建議.....	21

表次

表 1：日本與我國進口貨物非優惠性原產地規則比較表...	5
表 2：日本與我國非優惠性產證原產地標準比較表.....	17
表 3：兩國使用產證線上作業系統現況比較表.....	16
表 4：日本優惠與非優惠性產證比較表.....	20
表 5：日本與我國產證管理比較表.....	21

圖次

圖 1：日本優惠性產證申請流程示意圖.....	10
圖 2：日本優惠性產證線上作業系統登入後畫面.....	12
圖 3：申請人切結之系統畫面.....	13
圖 4：輸入貨品相關資訊之系統畫面.....	14
圖 5：申請核發產證切結之系統畫面.....	15
圖 6：輸入貨品資訊欄位之系統畫面.....	15
圖 7：東京商工會議所受理非優惠性產證申請期間.....	18

壹、前言

依據 WTO 之統計，自 2017 年 10 月起至 2018 年 10 月各國採行之貿易政策措施中有 63 % 為貿易救濟措施，不論反傾銷稅、平衡稅，或近期歐盟對鋼鐵採取防衛措施及美中貿易摩擦下加徵額外關稅等，均顯示國際貿易的保護主義風潮仍在持續蔓延中，致各國對輸出入貨物原產地認定之重視程度也逐漸提升，為完善我國貿易管理措施，實有必要藉此時機考察各國原產地規則、實務運作經驗及電子產證技術發展情形。

日本為我國第三大貿易夥伴，2018 年雙邊貿易總額達 672 億美元，雙方經貿往來可謂十分密切，爰此，藉由本次拜會日本原產地證明書管理機關、簽發單位及海關等相關部門，盼能瞭解該國原產地規則之管理架構及與原產地證明書(下稱產證)管理之執行情形，以供未來修正我產證管理措施及提升產證系統效能之參考。

本文將於第貳部分簡述本次考察行程；第參部分說明與財務省關稅局討論進口貨品原產地標準概況；第肆部份介紹拜會產證主管機關經濟產業省及簽發單位－日本及東京商工會議所，相互交流有關優惠性產證管理、線上系統功能及各類產證核發實務之情形；最後第伍部分為檢討與建議。

貳、行程內容

本次赴日考察共拜會財務省關稅局、經濟產業省貿易經濟協力局，以及日本商工會議所與東京商工會議所等 4 個原產地相關單位之承辦人員與主管。該等單位分別代表進口原產地規則主管

機關、該國產證主管機關及產證簽發單位(亦負責系統建置)，藉由與渠等交流，得以具體瞭解日本原產地規定管理架構及產證系統應用之相關技術。以下將逐一敘述參訪各單位情形。

參、拜會財務省關稅局

本次係拜會日本財務省關稅局關稅課原產地規則室人員，該單位主要負責進口原產地規則之規劃，經由其說明得以瞭解日本對於進口貨物原產地認定標準共分為 3 類：優惠性原產地標準、一般優惠關稅制度(Generalized System of Preferences；GSP)原產地標準，及非優惠性(Non-preferential)原產地標準。

優惠性原產地標準係依據日本與各國簽署之優惠關稅協定(Economic Partnership Agreement；EPA)，針對不同貨品各別訂定標準，其具體內涵將於第肆部分說明。而日本目前仍對於 133 個國家或地區給予 GSP 待遇，惟我國已於 2013 年停止核發 GSP 產證，以現況而言較無參考關聯性，故本節針對 GSP 認定標準不予贅述。

一、非優惠性原產地標準

日本之進口貨物非優惠性原產地標準主要規範於「關稅法施行令」及「關稅法施行規則」等法規內，其主要內涵如下：(參照表 1)

(一) 完全生產

1. 在一國或地區內(包含大陸棚)挖掘出之礦產品。
2. 在一國或地區內收割或採集之植物產品。
3. 在一國或地區內出生及養殖之活動物。

4. 自一國或地區內活動物取得之產品。
 5. 在一國或地區內狩獵或漁撈取得之產品。
 6. 由在一國或地區註冊登記之船舶自公海、我國及他國之專屬經濟海域所獲取之漁獲物。
 7. 在一國或地區註冊登記之船舶上，以上述漁獲物為材料所產製之產品。
 8. 由在一國或地區註冊登記之船舶設施於公海挖掘出之礦產品(排除第一款以外之產品)。
 9. 在一國或地區內所收集且僅適用於原料回收之使用過之物品。
 10. 在一國或地區內於製造過程中所產生之賸餘物、廢料。
 11. 在一國或地區內取材自前述物品生產之物品。
- (二) 貨物之加工、製造或原材料涉及 2 個或 2 個以上國家或地區者，原材料經加工或製造後所產生之貨物與原材料歸屬之海關進口稅則前 4 位碼號列相異。
- (三) 上述條件排除僅從事簡單加工者，例如：運送或儲存期間所必要之乾燥、冷凍、醃漬等保存作業、簡單之切割、分級、包裝、分裝、加作記號或重貼標籤，或將非原產品混合、簡單裝配零部件或使其成套組(set)等類似作業。

表 1：日本與我國進口貨物非優惠性原產地規則比較表

項目	日本	我國
管理機關	財務省關稅局	財政部關務署

項目	日本	我國
非優惠性原產地標準	1.完全生產 2.實質轉型：4位碼改變	1.完全取得 2.實質轉型 (1)6位碼改變 (2)附加價值率超過35% (3)已完成重要製程
簡單加工不得認定為原產地	採列舉敘述： 運送或儲存期間所必要之乾燥、冷凍、醃漬等保存作業、簡單之切割、分級、包裝、分裝、加作記號或重貼標籤，或將非原產品混合、簡單裝配零部件或使其成套組(set)等類似作業。	1. 運送或儲存期間所必要之保存作業。 2. 貨物為上市或裝運所為之分類、分級、分裝、包裝、加作記號或重貼標籤等作業。 3. 貨物之組合或混合作業，未使組合或混合後之貨物與被組合或混合貨物之特性造成重大差異者。 4. 簡單之切割或簡易之接合、裝配或組裝等加工作業。 5. 簡單之乾燥、稀釋或濃縮作業，未改變貨物之本質者。

二、預先審核制度

與我國海關相同，日本海關亦設有原產地預先審核制度，有利業者規劃營運銷售與提高輸入貨品時通關申報效率，亦可幫助業者確認是否適用EPA優惠稅率。謹歸納日本原產地預先審核制度之重點如下：

- (一)原則須以書面方式申請，依既定格式之申請書填入貨名、稅號、貨品概要(如使用之材料、生產工序、從事加工之

- 國家或地區等)，並附上原材料明細、詳細製程說明、樣品、設計圖或照片等，向預定輸入之進口地海關提出。
- (二) 海關受理後將於 30 天內審核並以書面答覆。倘申請人對該審核結果有異議，可於收到後 2 個月內向該關提出。
- (三) 對於海關做出之預審結果，除因法規變動等情形外，日後各地海關審查業者進口報關時均需予以尊重，期間最長達 3 年。另外，日本海關亦接受口頭或電子郵件方式諮詢原產地預先審核，惟其效力並不影響日後進口報關審查。
- (四) 原產地預先審核案例原則均彙整公布於日本海關網站¹供業者參考。

肆、參訪產證主管機關及簽發單位

本次參訪日本經濟產業省及日本與東京商工會議所，該等單位具體說明產證簽發規定及展示線上系統介面，以下謹簡介其業務分工，並摘述本次交流重點：

一、日本經濟產業省與日本及東京商工會議所簡介

日本經濟產業省下設有貿易經濟協力局，其中貿易管理部原產地證明室主管日本與各國簽訂之優惠關稅協定(Economic Partnership Agreement；EPA)產證(下稱優惠性產證)，目前日本已簽訂 18 個 EPA 協定。

日本商工會議所(JCCI)與東京商工會議所，係日本國內簽發原產地證明書之法人團體，其中 JCCI 如同我國商業總會或工業

¹ <http://www.customs.go.jp/zeikan/seido/origin/kaitoujirei.htm>

總會，係各地工商團體之聯合會，截至 2016 年已擁有 515 個工商團體成員，依慣例 JCCI 之代表係由東京商工會議所代表兼任。

二、優惠性產證管理制度

(一) 產證簽發方式

依照協定之約定不同，共有 3 種型態：

1. **第三方證明**：由經濟產業省依法授權並監督日本商工會議所(The Japan Chamber of Commerce and Industry；JCCI)簽發之優惠性產證，目前各地共設置 26 個事務所受理案件(採電子化申辦)；惟日本-新加坡 EPA 則不限由 JCCI 簽發，例外允許由國內 132 家各地區之商工會議所簽發。
2. **自行具證**：由製造商、出口商或進口商填寫經公告既定格式之「原產品申告書」，向進口海關申報適用，目前日本-澳大利亞、日本-歐盟 EPA 及 TPP11(CPTPP) 協定即採行此方式辦理。
3. **認定輸出者制度**：出口商向經濟產業省申請並經認定許可後，即取得資格，可直接在交易文件(如商業發票)上載明資格編號及聲明貨品係在日本生產之切結文字，以取代優惠性產證。目前僅日本-瑞士、日本-秘魯、日本-墨西哥 EPA 等 3 個優惠關稅協定適用此制度。

(二) 原產地認定標準

各 EPA 對不同貨品各自訂有原產地認定標準，具體標準不外乎完全取得、完全生產、最終實質轉型(稅號變更或

附加價值率)及重要製程，依據經濟產業省之回應，其中重要製程主要多針對化學品及紡織品訂定，例如日本-東協 EPA 之外套及短褲(HS 6203)即要求須於協定國境內完成布料織造及布料裁剪與車縫 2 個工序。

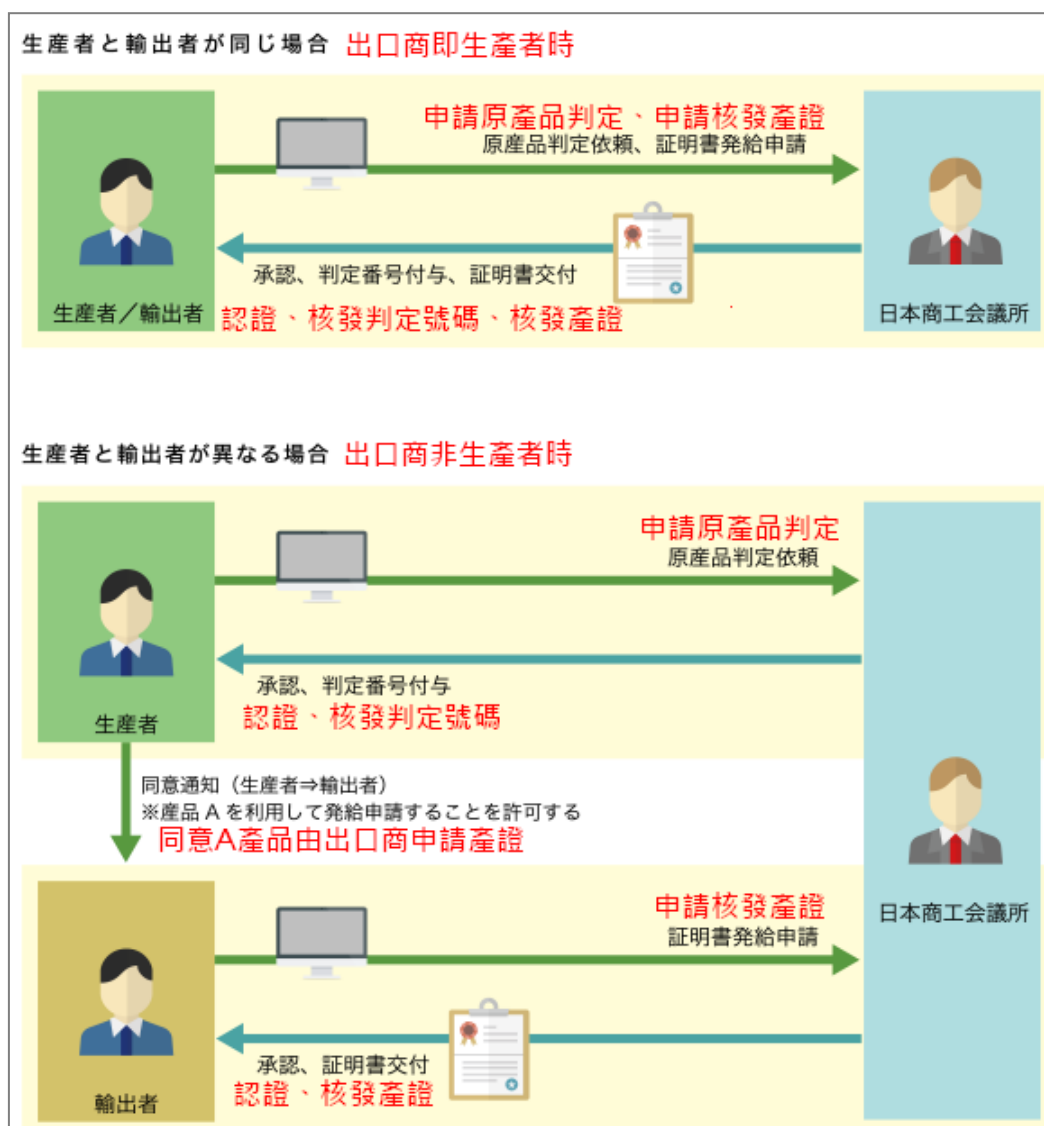
(三) 產證核發規範

1. 申請所需文件：

- (1) 申請採線上申辦，須先向 JCCI 辦理「企業登錄」，即註冊出口商公司或個人資訊，並記錄產證上有權代表出口商之簽章樣式。
- (2) 除商業發票、提單等交易文件外，日本-瑞士、日本-秘魯及日本-澳大利亞 EPA 另特別要求出口商必須取得製造商填寫之「原產品誓約書」(即製造商切結產品符合 EPA 規範，於日本生產製造)，其餘文件可視 JCCI 審查需要向申請人要求提供。另法規亦明定須依各 EPA 規範，保存紙本及電子相關資料 3 或 5 年。

2. 原產地認定審核：申請產證前，貨品必須先經出口商或生產者向 JCCI 線上申請「原產品判定」，即依據各 EPA 規定申報貨品稅號及符合之原產地標準，取得「判定號碼」，之後申請產證之每項貨物均需填入經 JCCI 審核之判定號碼。倘「原產品判定」係由生產者申請，則須另外線上提出「同意通知」，表示同意將該判定號碼交由特定出口商申請產證(如圖 1)。

圖 1：日本優惠性產證申請流程示意圖



3. **申請時點**：原則上須於貨品出口前申請；例外最晚可於裝船日之後 1 年內申請補發。
4. **申請費用**：JCCI 核發産證之收費標準需經日本經濟産業省核定同意，但不需繳入國庫。目前 1 件之基本費用為日幣 2,000 元，需再依産證登載之貨品項數以每項 500 元累加金額；第 21 項起則以每項 50 元累加(例：

產證共 22 項貨品，則費用為基本費用 2,000 元+20 項*500 元+2 項*50 元，共計 12,100 元)。

5. 核發份數：每件僅核發正本 1 份。

(1) 如因內容有誤需修改換發，必須將原證繳回簽發單位，並再次計算金額及應繳納之費用。

(2) 倘因遺失需申請再次核發相同內容之產證，需說明遺失原因及提出證明文件(例如向警察報案紀錄、消防單位火災證明等)，並重新繳納費用；至於再次核發之產證將註記原產證之核發日及號碼²。

6. 有效期限：各類優惠性產證期限均為 1 年。

7. 簽章方式：簽發單位及人員之簽章不論以電子式或親筆簽名，於各類 EPA 協定下均可接受。

(四) 管理現況

1. 核發件數：於 2018 年簽發量達 31 萬 6 千件以上，並呈現每年增長之趨勢。

2. 違規罰則：若申請人以不實文件申請產證，依照相關法規可裁罰最高日幣 30 萬元。若涉及偽造產證，則可能依日本刑法偽造公文書罪條款，處以 1 年以上 10 年以下之有期徒刑。

3. 對簽發單位定期培訓：要求簽發單位之新進簽發人員必須接受簽發訓練，並針對現任簽發人員每年約辦理 2 次研習。

²具體記載文字內容可參照日本與各國 EPA 協定之產證格式及填寫說明 (https://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/boekikanri/gensanchi/hourei.html)

4. 對外宣導教育：JCCI 及其所屬事務所每年辦理數場說明會，講解如何申請優惠性產證。經濟產業省亦透過委辦計畫委託民間會計事務所擔任 EPA 宣導機構，受理廠商諮詢如何適用 EPA，並舉辦研討會。另外，行政法人日本貿易振興機構(Japan External Trade Organization；JETRO)亦會不定期辦理 EPA 相關宣導活動。

(五) 產證系統功能

JCCI 轄下 26 個事務所均使用同一系統簽發產證，申請人需申請帳號後登入該網站系統提出申請案件。如同前述，申請流程分為 2 階段，須先經過「原產品判定」後，始可申請產證(如圖 2)。以下簡述 2 階段申請功能：

圖 2：日本優惠性產證線上作業系統登入後畫面

第一種特定原產地証明書発給システム										ログアウト
ご利用者	判定依頼中	0件	発給申請中	0件	企業	判定依頼中	0件	発給申請中	1件	
	判定手続中	0件	発給手続中	0件		判定手続中	0件	発給手続中	1件	
	誓約書申請	0件	交付準備完了	0件		誓約書申請	0件	交付準備完了	1件	

■■■■■■■■ ■■■■■■■■ メインメニュー ■■■■■■■■	
<p>原産品判定</p> <p>原産品判定依頼書入力</p> <p>原産品同意通知書入力</p> <p>原産品(誓約書)利用状況</p>	<p>発給申請</p> <p>発給申請書入力</p> <p>原産品同意通知書照会</p> <p>引換書・受領書印刷</p>

1. 原產品判定：

(1) 申請人向 JCCI 切結申報資料屬實，並同意遵循相關法規(如圖 3)。

圖 3：申請人切結之系統畫面

原產品判定依頼書 メニューに戻る

キャンセル 保存 判定依頼

日本商工会議所 御中

1. 当社/私は、標記原產品判定依頼に関し、經濟連携協定に基づく特定原產地證明書の発給等に関する法律に則り、当該原產品判定依頼書に係る申告内容は全て真正であることを誓約します。
2. 当社/私は、当該原產品判定依頼書について、記載内容を立証する関係資料を原產地證明書の発給の日以後5年間(日ブルネイ協定、日アセアン協定、日スイス協定および日ベトナム協定は3年間)保存し、両国政府及び政府の指定する関係機関からの要請に応じて提出することを誓約します。
3. 当社/私は、当該判定依頼書について次に掲げる事実を知ったときは、遅滞なくその旨を書面により関係機関に通知することを誓約します。
①当該第一種特定原產地證明書の発給を受けた物品が特定原產品でなかったこと
②当該原產品判定依頼書の内容に誤りがあったこと

注意事項
第一種特定原產地證明書の発給申請時点で、本原產品判定依頼書は、經濟連携協定に基づく特定原產地證明書の発給等に関する法律第3条第2項の「特定原產品であることを明らかにする資料」に相当します。よって、虚偽の資料提出があった場合には、同法第36条の規定による罰則が適用されますので十分注意してください。

以上の事項のとおり誓約し、判定依頼書を記入します。

はい いいえ

(2) 進入申請頁面後，申請人資訊(如公司名稱、地址等)

將依據登入之帳號資料自動帶出，申請人僅需點選何種 EPA 協定及本次欲向哪個事務所提出申請。

(3) 接著再輸入產品製造者資訊、HS Code 6 位碼及英文品名，並勾選符合之原產地標準如：完全取得、

完全生產或 EPA 依稅號別所訂之特定原產地規則

(Product Specific Rules ; PSR)等，完成後即可送出

申請(如圖 4)。

圖 4：輸入貨品相關資訊之系統畫面

■**關稅分類番号(tariff classification number) 及び 原産品名(Description of good(s))**
 原産品判定の対象となる産品の關稅分類番号(半角数字8桁)と原産品名(英字)を記入してください。

※原産地證明書に印字される原産品名は、原則としてインボイス等に表記されている品名と実質的に同一となるよう記入してください。
 ※ブランド名や商品コードのみの記入ではなく、具体的かつ一般的な商品名を記入してください。
 ※この表記は、原産地證明書の Field4 : Description of good(s) に反映されます。
 ※關稅分類番号(HSコード)は、輸入時のものを使用してください。また、2002年1月1日に改正された統一システムの番号を記入してください。

(1)原産品判定を行う輸出産品のHSコード及び英文名称を入力してください。**輸入HS Code及英文品名**

HSコード(6桁)	原産品判定対象の輸出産品名(英文)
847130	Printable digital automatic processing machine (personal computer)

■**特惠基準(Preference criterion)**
 協定に基づき、輸出される産品が關稅上の特惠待遇を得るためには、特惠基準のいずれか少なくとも1つの要件を満たさなければなりません。

※特惠基準を選択してください。**選擇符合之原産地標準**

(2)原産品判定基準：原産品判定基準を下記から選んでください。

<input type="radio"/> A	日本国内で完全 に 得られ又は生産される産品(協定第3章第29条1(a))。 完全取得
<input type="radio"/> B	日本国内において原産材料のみから完全 に 生産される産品(協定第3章第29条1(b))。 完全生産
<input checked="" type="radio"/> C	日本国内において非原産材料を使用し完全 に 生産される産品で、品目別原産地規則(附屬書二)の要件等を全て満たす産品(協定第3章第29条1(c))。 稅號別特定原産地規則(PSR)

(3)(2)のCを選択した場合の判定基準を下記から選んでください。

<input type="radio"/> 1	付加価値基準(VA) 附加價值率
<input checked="" type="radio"/> 2	關稅番号変更基準(CTC) 稅則變更
<input type="radio"/> 3	加工工程基準(SP) 重要製程
<input type="radio"/> 4	付加価値基準(VA)+關稅番号変更基準(CTC) 附加價值率+稅則變更

(4)送出申請後，系統將顯示收件編號及受理之事務所。原則上事務所將於3個工作天內完成審查，並以郵寄或電子郵件方式通知申請人 JCCI 核給之「判定號碼」。

2. 產證申請：

(1)勾選 EPA 協定、目的地國別及本次欲向哪個事務所提出申請。同時此處亦包含向 JCCI 切結申報資料屬實，並同意遵循相關法規(如圖 5)。

圖 5：申請核發產證切結之系統畫面

メニューに戻る

発給申請書入力

キャンセル 保存 発給申請

発給申請書

日本商工会議所 御中

[注意事項](#)

1. 当社/私は、標記発給申請書に関し、経済連携協定に基づく特定原産地証明書の発給等に関する法律に則り、当該発給申請書に係る申告内容は全て真正であることを誓約します。
2. 当社/私は、当該発給申請書について、記載内容を立証する関係資料を原産地証明書の発給の日以後5年間（日・ブルネイ協定、日・アセアン協定、日・スイス協定および日・ベトナム協定は3年間）保存し、両国政府及び政府の指定する関係機関からの要請に応じて提出することを誓約します。
3. 当社/私は、当該発給申請書について次に掲げる事実を知ったときは、遅滞なくその旨を書面により関係機関に通知することを誓約します。
 - ①当該第一種特定原産地証明書の発給を受けた物品が特定原産品でなかったこと
 - ②当該第一種特定原産地証明書の記載に誤りが生じたこと
 - ③当該第一種特定原産地証明書に記載された事項に変更があったこと

以上の事項のとおり誓約し、発給申請書を記入します。

※発給申請する協定名、証明書の発給事務所を選択してください。

協定	日アセアン協定	仕向国	マレーシア
発給事務所	東京事務所		

※下記の欄のうち、◎のついた欄は必須項目となりますので、必ず記入してください。

(2) 申請人資訊將依據登入之帳號資料自動帶出，需注意的是，申請人必須為貨物實際出口人，且與商業發票內容相符。

(3) 輸入進口人資訊、航運資訊(如裝船日期、裝卸港及船名航次等)。

(4) 輸入貨品資訊(如圖 6；含原產品判定號碼、稅則、貨名、數量、單位、商業發票號碼與日期等)。

圖 6：輸入貨品資訊欄位之系統畫面

メニューに戻る

産品情報入力

※産品ごとに、原産品判定番号、数量または重量、インボイスの番号及び日付を記入し、登録ボタンをクリックしてください。入力されると一覧に反映します。

原産品一覧選択ボタンをクリックして産品を選択するか、原産品判定番号が分かる場合は直接数字を入力してTABキーを押してください。原産地証明書に印字される原産品名は、原則としてインボイス及びHSコードに相当する品名と実質的に同一となるよう記入してください。ブランド名や商品コードの記載のみでは証明できません。具体的かつ一般的な商品名を記入してください。

インボイスの日付は、発給申請日以前であることが必要です。インボイスは輸入のために発行されたものである必要があります。◎第三国においてインボイスが発行された場合、リインボイスの番号及び日付を記入してください。

◎リインボイスの番号が不明の場合は、日本の輸出者の発行によるインボイス番号及び日付を記入してください。

第三国においてリインボイスが発行された場合、証明書にリインボイス発行者に関する情報(英文章名、英文所在先)の記入が必要となります。産品情報入力画面から発給申請書入力画面に戻りいただき、産品情報入力ボタンの上の「リインボイスの使用およびリインボイスの発行者」欄に記入してください。

原産品判定番号	原産品名	数量	単位	インボイス番号	インボイス日付
原産品一覧選択 6049349804 (直接入力)	Microwave ovens standard type-B 原産品判定之貨名				
HSコード	企業登録番号	原産地証明書に印字される原産品名	同等有効期限	インボイス番号	インボイス日付
851050	400012536	Microwave ovens standard type-B 顯示於産證之貨品名稱	2011年06月13日	Invoice 號碼	Invoice 日期

登録 削除 戻る

産品入力済一覧 已輸入之貨品項目						
半産番号	HSコード	(原産地証明書に印字される原産品名)	数量	単位	インボイス番号	インボイス日付
493581196	B41480	GAS COMPRESSOR	1	set	HH-0000-00	2018年02月02日
1592287488	B48071	Inflation types for elastic carts	1	set	HH-0000-00	2018年02月02日
1674311212	B41780	Steel Parts of Industrial furnaces	1	set	HH-0010-00	2018年02月02日

(5) 最後填寫案件申請之聯絡人資訊及選擇費用支付方式、產證領取方式(臨櫃或郵寄)、收據抬頭名稱後，

即可送出申請，系統將顯示收件編號及受理之事務所。原則上 JCCI 事務所於 2 個工作天內完成審查。

(6) 綜合上述，茲比較日本與我國使用產證線上作業系統現況如表 3：

表 3：兩國使用產證線上作業系統現況比較表

項目	日本	我國
1.線上申請及審核	僅優惠性產證	全部(優惠及非優惠性)產證
2.繳費機制	臨櫃或 ATM 轉帳	臨櫃或網路
3.儲存方式	僅優惠性產證存於系統資料庫	優惠及非優惠性產證均存於系統資料庫
4.產證列印方式	由簽發單位 JCCI 自系統列印	可選擇由簽發單位或申請人自行列印
5.系統維護經費來源	JCCI 運用收取之簽發費用支應	本局編列預算
6.證書防偽機制	系統有提供	系統有提供
7.區塊鏈及 AI 技術	系統未應用	系統未應用

三、非優惠性產證管理制度

(一) 產證簽發方式及原產地認定標準

非優惠性產證由各地區之商工會議所(目前約 410 間)自行簽發，目前尚未採行電子化申辦，且日本政府並未針對非優惠性產證訂定相關規範。JCCI 於 1999 年制定「商工會議所原產地證明書等貿易關係書類認證規程」及「商工會議所貿易關係證明罰則規程」，並設計具防偽效果之專門用紙，使全國各地商工會議所核發產證時在重點原則上有所依循。值得注意的是，前述規章中亦

明示應參照日本關稅法施行令所訂之進口貨物非優惠性原產地標準來核發產證。

表 2：日本與我國非優惠性產證原產地標準比較表

項目	日本	我國
法規	商工會議所原產地證明書等貿易關係書類認證規程、關稅法施行令	原產地證明書及加工證明書管理辦法
非優惠性產證原產地標準	1. 完全生產 2. 實質轉型：4 位碼改變	1. 完全取得 2. 完全生產 3. 實質轉型： (1) 稅則前 6 位碼號列相異 (2) 附加價值率超過 35% (3) 特定貨品已符合貿易局公告之重要製程者

(二) 產證核發規範

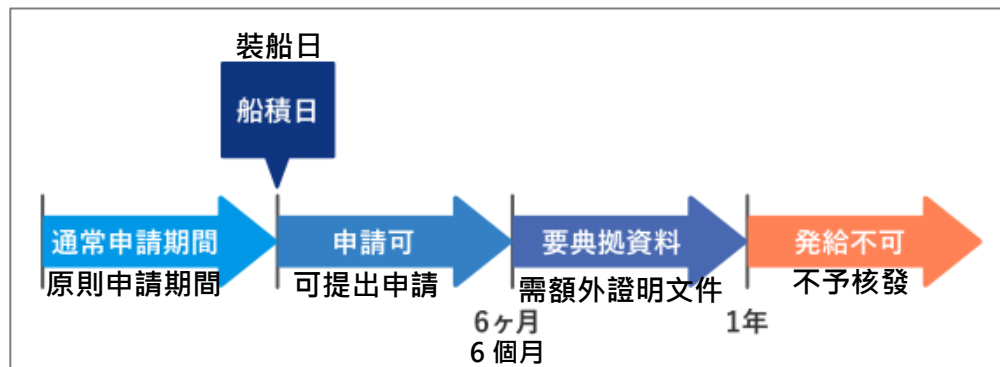
1. 申請所需文件：

- (1) 無論是否為商工會議所會員，依規章皆需於申請前進行「貿易登錄」(效期 2 年)，即註冊出口商及代辦業者資訊，以確認經營狀況；同時切結申請資料均屬實、願遵守商工會議所訂定之規章，並記錄產證上有權代表出口商之簽章樣式。
- (2) 因採紙本方式申請，需事先購買專門用紙，以電腦繕打原產地證明書正本後，連同申請書及商業發票交付審查，其餘文件可視商工會議所審查需要而向申請人要求提供。

(3) 東京商工會議所表示，倘對書面文件有疑義時，難以逐案至公司或工廠實地查證，但會採取其他方式輔助(如至該公司或工廠網頁查詢)。

2. **申請時點**：原則上應於貨品出口前或出口裝船日起 6 個月內提出申請。如裝船後超過 6 個月以上，1 年以內提出申請，東京商工會議所將要求廠商額外檢附理由說明書、運輸提單、生產商出具之製造證明等文件。至於裝船日起逾 1 年後申請，將不予核發產證(如圖 7)。

圖 7：東京商工會議所受理非優惠性產證申請期間



3. **申請費用**：各地商工會議所收費有所不同，通常申請人非會員者，其手續費可能為會員之 2 至 3 倍。以東京商工會議所為例，會員收取日幣 1,080(約新臺幣 300)元/件；非會員則為 3,240 元/件，另會員可要求急件處理，但需加收 1,080 元/件。購買專門用紙之費用則另計。
4. **核發份數**：

(1) 依東京商工會議所規範，每件產證正、副本合計核發 6 份，惟正本限 3 份以內，並需繳交副本 1 份供商工會議所留存。倘副本需額外申請，致合計份數逾 6 份，將以「超出之份數」乘以「單件費用」計

算額外收費。(例：申請正本 3 份、副本 5 份，則會員手續費為 1,080 元+2 份*1,080 元；非會員則為 3,240 元+2 份*3,240 元。)

(2) 如因內容有誤需修改換發，必須將原證正、副本全數繳回簽發單位，由簽發單位蓋印校正章。惟商業發票號碼、日期、貨名、原產國等重要欄位無法修改，僅能重新提出申請。

(3) 倘因遺失需再次核發相同內容之產證，僅能申請補發副本，並再次繳納手續費。

5. 有效期限：非優惠性產證未規定效期。

6. 簽章樣式：出口商需親筆簽名，並與「貿易登錄」之有權代表簽章樣式相符。簽發單位部分除因領事館認證或信用狀要求，原則上以蓋印方式簽署。

(三) 產證管理現況

1. 核發件數：2017 年簽發量約 52 萬 7 千件。

2. 作業方式：目前均採紙本申請，並預計於 2020 年 4 月起開始導入線上申請。

3. 違規罰則：

(1) 依據「商工會議所貿易關係證明罰則規程」，若查到產證內容資訊不實，且屬故意違規者，將註銷該申請人及代辦業者之貿易登錄資格(註銷後 3 年內各地商工會議所均不予受理登錄)；倘屬過失則停止核發 1 個月，並於恢復後 6 個月內嚴格審查，要求額外檢附證明文件。

(2)核發產證後卻竄改出口人名稱者，將註銷該申請人及代辦業者之貿易登錄資格；竄改其餘內容者，停止核發 1 年。

(3)涉及偽造產證用紙或簽發單位簽章者，將停止核發，並移送刑事調查。

4. 宣導教育：由各地區商工會議所自行辦理說明會活動。例如東京商工會議所每週皆受理廠商預約當面諮詢或小型說明會，講解申請流程及原產地標準。

四、日本優惠與非優惠性產證比較

綜整日本優惠性與非優惠性產證相異處，如表 4：

表 4：日本優惠與非優惠性產證比較表

項目	優惠性產證	非優惠性產證
1. 政府機關是否訂定規範	是	否
2. 簽發單位	日本商工會議所(JCCI)	各地區商工會議所
3. 產證簽發單位家數	1 家 (各地設 26 個事務所)	約 410 家
4. 產證費用	經經濟產業省核定同意，每件基本費用為日幣 2000 元，再依貨品項數以每項 500 元累加；第 21 項起以每項 50 元累加。	各地商工會議所有所不同，申請人非會員時，可能為會員之 2 至 3 倍。
5. 產證申辦形式	線上申請， 核發紙本產證	均採紙本方式
6. 產證申請期限	原則應於貨品出口前申請，裝船日起逾 1 年後不予核發。	原則應於貨品出口前申請，裝船日起逾 1 年後不予核發。

項目	優惠性產證	非優惠性產證
7. 產證正本份數	正本 1 份。	正本最多核發 3 份。
8. 產證保存期限	依各 EPA 規範，保存相關文件 3 或 5 年。	無具體規範。

伍、檢討與建議

一、日本與我國產證管理架構之檢討與比較

綜整前述參訪各單位情形，日本與我國有不少相異之處，例如非優惠性產證是否由政府訂定規範管理，以及產證允許核發份數等，雙方具體異同比較如表 5：

表 5：日本與我國產證管理比較表

項目	日本	我國
1. 產證主管機關	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非優惠性產證：政府未予以規範，由工商團體自主管理。日本商工會議所訂定相關規章。 2. 優惠性產證：經濟產業省。 	經濟部國際貿易局
2. 產證簽發單位	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非優惠性產證由各地區商工會議所簽發。 2. 優惠性產證依法授權日本商工會議所 (JCCI) 簽發。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非優惠性產證由工商團體、財團法人、農會、漁會、農產品合作社/產銷協會、政府機關等簽發。 2. 優惠性產證: 臺巴、臺瓜、臺尼、臺薩宏由 16 個政府機關簽發；ECFA 由 54 個簽發單位簽發；臺星、臺紐 FTA 為

項目	日本	我國
		自行具證。
3. 產證簽發單位家數(非優惠性產證)	約 410 家 各地區商工會議所	104 家(截至 108.8.5)
4. 產證簽發單位家數(優惠性產證)	1 家 (JCCI 各地 26 個事務所)	16 個政府機關
5. 非優惠性產證原產地認定標準	參照進口貨物非優惠性原產地標準： 1. 完全生產 2. 實質轉型：4 位碼改變	明訂於「原產地證明書及加工證明書管理辦法」： 1. 完全取得 2. 完全生產 3. 實質轉型： (1) 稅則前 6 位碼號列相異 (2) 附加價值率超過 35% (3) 符合貿易局公告之重要製程
6. 產證費用	1. 非優惠性：依各地商工會議所不同，申請人非會員時，可能為會員之 2 至 3 倍。 2. 優惠性：經濟產業省核定同意，每件基本費用日幣 2000 元(約新臺幣 600 元)，再依貨品項數以每項 500 元累加(第 21 項起以每項 50 元累加)。	每件新臺幣 250 元
7. 產證申辦形式	非優惠性產證以紙本申請；優惠性產證採線上申請。	均電子化
8. 產證列印方式	1. 非優惠性：申請人登	申請人自行列印或簽

項目	日本	我國
	打於專門用紙後交簽發單位審核認證。 2. 優惠性：簽發單位列印。	發單位列印
9. 審核疑義處理	由商工會議所直接決定是否核發或拒絕申請	向本局專案辦理
10. 產證申請期限	原則於裝船出口前申請，裝船後逾 1 年不予核發。	出口後 180 日內，超過須向本局專案申請。
11. 產證正本份數	1. 非優惠性：正本最多 3 份。 2. 優惠性：正本 1 份。	正本 3 份，超過需要向本局專案申請。
12. 產證正本期限	非優惠性產證無期限，優惠性產證依照 EPA 規範均為 1 年。	非優惠性產證無期限，優惠性產證依照 FTA 協定規範均為 1 年。
13. 產證資料保存期限	1. 非優惠性：無具體規範。 2. 優惠性：依各 EPA 規定 3 或 5 年。	紙本資料須保存 3 年，電子資料須保存 5 年。
14. 是否定期辦理宣導說明會	每年於各地辦理多場，且不限主管機關辦理。	每年定期由主管機關於全國各地辦理多場。
15. 產證主管機關對簽發單位稽查	無稽查機制，但要求新進簽發人員須接受產證簽發相關訓練； 針對現任簽發人員每年約辦理 2 次研習訓練。	每年定期稽查
16. 產證簽發件數	1. 非優惠性：2017 年核發超過 52 萬件。 2. 優惠性：2018 年核發超過 31 萬件。	1. 非優惠性：1 年核發超過 60 萬件。 2. 優惠性：1 年核發超過 14 萬件。

二、考察建議

以下就產證管理實務及產證系統功能 2 部分提出參考建議。

(一) 產證管理

由於日本與多國簽署數個 EPA 協定，管理機制上較為重視優惠性產證與其原產地認定標準，而在核發非優惠性產證方面，則由非政府單位自主依循進口貨物非優惠性原產地標準，需符合完全生產或外國原物料經加工製造後稅則前 4 位碼改變(實質轉型)之條件。反觀我國法規即明文規定完全取得、完全生產及實質轉型(如：稅則 6 位碼改變、於我國加工後附加價值率達 35%以上、在我國境內完成重要製程)等標準。相較之下，日本非優惠性產證之原產地認定標準相對嚴格，此亦反映出各國基於國情不同，訂定之具體標準有所差異。而鑑於近來國際間持續採取貿易救濟措施，進口國對於部分受關注產品之原產地認定可能趨於嚴謹，故我國未來針對具違規轉運風險或國內需受保護產業之特定產品，似可參考日本作法，要求以稅則前 4 位碼改變做為實質轉型認定條件。

另外，在申請費用方面，日本簽發單位 JCCI 核發 EPA 優惠性產證，除收取基本手續費外，尚依照產證登載貨品項數累加費用；我國則不計項數多寡，一律每件費用 250 元，額外加發份數時始增加費用。實務上我國簽發單位亦曾反映部分案件因品項繁多，需花費其餘案

件數倍之時間與精力仔細審核，倘廠商不慎誤植內容需換發修改，又將耗費額外資源處理同筆案件。故考量使用者付費及公平原則，我國或許可參酌日本作法，檢討是否修正產證管理辦法，將貨品項數納入計費準據，亦可達到敦促廠商謹慎申請之目的。

(二) 產證系統功能應用

目前日本僅優惠性產證採線上申請，且系統未應用區塊鏈及 AI 等技術；至於非優惠性產證之申辦仍採紙本作業，有 10 餘年之久。為降低廠商申請產證成本並符合國際貿易趨勢，該國將於明(2020)年 4 月開始實施非優惠產證電子化作業。

JCCI 提及規劃非優惠產證電子化作業時，特別關注產證無紙化之推動，我方與渠分享產證系統主要功能(包含線上申請、審核、繳款及發證列印等)，並針對取消核發紙本產證之可行性進行探討。我方建議仍應視進口(國)人需求而論，例如我國與中國大陸簽訂之 ECFA 協議，雖已有產證跨境電子資料交換，惟為免一方系統故障或應部分海關及進口人需要，至今尚未取消紙本發證，採電子訊息與紙本併行。

上述日本預計於明年建置之系統可否推動產證無紙化，除符合進口人要求外，尚應考量各進口國需有相當之資訊化程度，故我方似可持續留意日方電子化工作進展，以利本局產證系統仿效及運用。